



や っ か い ろ き ぼ う

八束色の希望

松江市立義務教育学校
八束学園
令和8年 9月24日
学園長 上田亜由美

学園教育目標：ふるさとを愛し、人間性豊かでたくましい学園生の育成

8月28日に始業式を行い、2学期が始まって約一か月が過ぎました。今年の夏も大変な猛暑でしたが、9月に入って降雨も続き、朝夕は多少涼やかな風を感じる日も増えてきたように感じます。

今年度は体育祭を10月7日に開催することとなり、体育祭準備をゆったりと進めているところです。

7年松江市探検・8年修学旅行・9年職場体験

8年生の修学旅行の時期に合わせ、7年生はふるさと教育の一環として、市内の観光名所などをグループごとに調べて回る自主研修を、9年生は市内外の事業所等に出かけ、実際の仕事を体験する職場体験を、それぞれ行いました。例年と同様の取り組みではありますが、後期課程の学園生にとってはとても貴重な体験活動の場です。トラブルがあっても、自分たちで問題を解決しながら乗り切ることができました。お世話になった皆様、ありがとうございました。



※編集期間の都合により、修学旅行の画像のみを掲載しております。その他の様子はホームページでお伝えします。

八束学園ホームページは

こちらからどうぞ



八束学園

少年の主張 松江大会

9月1日(火)、少年の主張松江大会が開かれ、本校からは7年生の学園生が代表として参加し、結果は優良賞でした。代表に選ばれてから、原稿を書き直し、何度も練習し、本番では堂々と発表しました。全文を掲載しましたので、お読みください。



「伝わる愛、感謝の気持ち」

みなさんは、自分の名前に込められた思いについて知っていますか。私は、最近このことについて、深く考えさせられる出来事に出会いました。

それは、自分に対してあだ名をつけられて、自分のことを話題にするときに使われ、そんな形で使われる自分の名前がとても嫌になり、そのことで母を責めたことでした。私は母に向かって、「こんな名前にするから、人からバカにしたようなあだ名つけられるんだよ。私なんて、この世に存在している意味がないと思う。」と言ってしまいました。その言葉を聞いた母は、とても悲しそうに涙をうかべ、私を出産した時のことから、名前をつけた時の思いについて話してくれました。

母が私を出産したのは、まわりのお母さんたちからみたら高齢出産で、いろんな心配をしながら出産をしたそうです。高齢で出産をすることには、母親側にも赤ちゃん側にもリスクがあることを聞かされていて、元気に生まれてきた私を抱いた時、本当に安心して「生まれてきてくれて、ありがとう」と心からうれしさに涙が出たと話してくれました。続けて、母は私に「あなたは『しあわせになあれ』という曲を知らないかな？少し前にその曲を聞くことがあって、あなたの名前をつけた時のことを思い出したよ。」と話しました。実は、この「しあわせになあれ」という曲、三年生の時、学校でみんなと一緒に歌ったことがあり、私もよく知っている曲でした。思い出すとメロディーが自然と浮かんできて、「目を閉じて 繰り返す あなたがくれた名前 光あふれた朝に願いを込めて あなたが授けてくれた しあわせになあれ しあわせになあれ」と歌ったことを思い出しました。「ああ、そうだ、母は生まれてきた私にしあわせになあれ、と気持ちを込めて名前をつけてくれたんだ。」そのことがやっとわかりました。そして、同時に私は母に対して何とひどいことを言ってしまったのだろうと自分で自分の発言のおろかさにはずかしくなりました。母と話をする中で、私は母親の子どもに対しての思いを学んだ気がします。

母親の子どもに対しての愛情の深さを知るものに、野口英世の母シカの息子への手紙があります。私は、この手紙の存在をこうして母親の子どもに対しての思いについて話をしている時に、母から教えてもらいました。明治の人であるシカは、文字の読み書きができなかったようですが、アメリカにいる息子に会いたい一心で読み書きを学び、一通の手紙を書きました。それは、習ったばかりの本当に読みにくい字ですが、懸命に息子へ思いを伝えようとしたことがよくわかる文面で、母親の深い愛情にあふれています。今の時代の私も「はやくきてくたされ」と息子に一目会いたいという気持ちが表れている一文に思わず涙が出てしまいました。大学の授業で、初めてこの手紙を目にした母も、神奈川県からふるさとの遠く離れた島根の母を思って涙が止まらなかったと話してくれました。

母親と子と言う関係は、本当に何ものにもない特別な関係なのだと感じます。私は、母との会話を通して、母親の子に対する愛情の深さを母から学びました。母親の子への愛は、見返りを求めず、ただ子のしあわせを願う「海よりも深い愛」と言えるのではないのでしょうか。この深い愛情に包まれているから、私たちは、しあわせな人生を歩んでいくことができると思います。この愛は、親から子へそして孫へと受けつがれていくものであると思います。この愛に、これから私は感謝の気持ちを持ち続けていきたいです。また、私を支えてくれている母への感謝の気持ちは、その他の自分を支えてくれる他の家族、そして学校の先生、地域の人に対しても同じだと思います。まわりの人に対しての感謝の気持ちを持つこと、それは今の私に何よりも大切なことだと思えるのです。

最後に、私は伝えます。自分を支えてくれるすべての人に対して「ありがとう。」と。